

地区協わかば

防災訓練2016

10月30日、当地区協主催の若葉学校地区住民による防災訓練を若葉小で実施しました。

本年は昨年に引き続き以下の3点に絞りました。

- (1) 安否確認の方法として、自治会に加入していない住民(以下、未加入者)を当該自治会に組み入れた避難者名簿を作り、避難所に参集する。
- (2) 避難所生活として、体育館内の指定位置に避難し、配給品の授受は未加入者を含めた自治会単位で行う。
- (3) 命を守るための技術訓練として、『救出』、『搬送』、『応急救護』、『消火』訓練を行う。

当日、調布消防署、消防団、市役所、防災ボランティア等の支援を受け、当地区協役員47名と奉仕者として神代高6名、四中43名の総勢96名で運営し、訓練には250名の住民が参加しました。

「安否確認」では昨年に比べ把握度は進んだものの、名簿を持参しなかった自治会もあり、また必要事項を満たせば名簿の書式は自由であったため集計に手間取り、「避難者名簿」の書式を統一する必要があると感じました。

「避難所生活」の体験の一步としては、自治会ごと、参集した人数に応じた区画の割り振りをしました。アルファ米と豚汁の炊き出しを自治会ごとに配給し、避難所内で昼食としました。受渡しに想定以上の時間が掛かり、実際被災した時の参集者は遥かに多くなるので、更なる工夫が必要と思われます。

「技術訓練」の『搬送』には人形に土嚢2袋を加え、人間の重量を体感して貰いました。『応急救護』ではAED人形を2体で行いましたが、待ち時間が長くなり、より多くの人形が必要でした。『消火』では水消火器に加え、スタンド・パイプの訓練を行いました。スタンド・パイプでは当初、放水の水圧で訓練者の腰が振れましたが、慣れるに従いしっかりと標的を定めることができるようになりました。

初めてのことは戸惑いがありますが、似たようなことを体験しておけば、滅多におきない大災害にも、訓練の積み重ねで被害を抑えられると思います。

(防災推進委員長 川岸 健次)



「人をつなぐ・地域をつなぐ」

市民企画講座

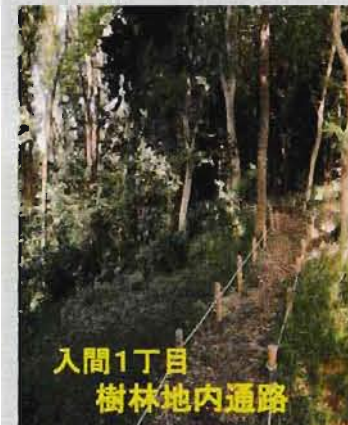
～「知ろう・歩こう国分寺崖線と私たちの暮らし」について～ (東部公民館事業から)

国分寺崖線は、立川市砂川から始まり東南に向かって野川に沿って延び、若葉の森や入間の樹林地を形成し、二子玉川付近から多摩川に沿って大田区田園調布付近まで続いています。延長は約30kmで、若葉町から入間町付近では15mから20mを超える高さとなっています。国分寺崖線では崖線の面積に対して樹林地が約35%で、最近では若葉小学校付近においても宅地開発が行われるなどで減少しています。市では、崖線の緑は自然地形に残る貴重な自然環境であるとともに、動植物とふれあいを持てる貴重な空間であることから、緑の骨格とし保全に努めています。



入間2丁目崖線

本講座は全3回で開催し、1回目は、東京都の緑の現状と課題、調布市環境基本計画で目指す環境の姿、崖線の基本知識、緑の現況、崖線の緑の保全と管理計画及び保全に向けた課題の話がありました。2回目は、11月23日の午前中、東部公民館から入間公園まで国分寺崖線を歩きました。この日は雪の降った前日でもとても寒い中、若葉町第1緑地、第3緑地と入間樹林地などを歩き、「若葉緑地の会」、「入間・樹林地の会」の会員からそれぞれ現地でお話を伺いました。樹林地では、わずか数十メートル違うだけで、植生が変わり貴重な植物が自生している場所もあります。3回目は、この地域の国分寺崖線を古代から振り返り、絵地図が残る明治2年、写真記録がある昭和23年、昭和38年と現在を比較しながらお話を伺いました。また、この地に生まれ長年暮らしている新井七吾さんから、子ども時代の暮らし、遊び、農業、雑木林の役割など幅広く貴重なお話をお聞きすることができました。昔の様子のほか、崖線の下は上と比較して夏涼しく、冬は北風を防いで暖かいことや、タヌキは昔よりも今のほうがよく見かけることなどが、参加された方の印象に残ったようです。



入間1丁目
樹林地内通路

(調布市東部公民館館長 金子 勝巳)



崖線に咲く花

写真提供: 安部 宝根 「入間・樹林地の会」

		
シャガ	キツネノカミソリ	ニリンソウ

運営委員募集

若葉学校地区協議会では、平成21年3月の設立以来、地域のニーズに即した活動を地域の有志により運営しています。防災、防犯、広報・地域交流など、一緒に運営をお手伝い下さる方を募集しています。老若男女を問いません。

地域活動に興味がある方、地域を知りたい方、下記までご連絡ください。

◆会長(携帯電話): 090-2521-3732 藤丸 卓男

普通救命講習

2月4日若葉小学校和室にて普通救命講習を行いました。

当地区協では、地域で活動しているリーダーの皆さんに、けがや急病人が発生した時慌てず応急手当ができるよう「普通救命講習」を受講できる機会を設けています。

4回目（毎年1回）となりました今回は22名の参加者が受講しました。自治会の代表、PTAや子ども会の役員、地区協の新メンバーなど所属は色々ですが、当日は講師（東京防災救急協会）のもと、楽しくも緊張しながらの充実した時間を送りました。



(若葉小のAED)

講義に入る前「皆さんはどこにAEDがあるか知ってますか？学校？駅？…。学校や駅は夜中に閉まったりしますよね。急に倒れて救急に連絡が入るのは自宅にいる時が圧倒的に多いです。24時間使用できるAEDが近所のどこにあるか知っていてください。コンビニなどはいつでも開いているのでそういったところを知っておくことは大切なことですね」との話を伺い、今日の犬の散歩にはそういう目で街を歩いてみよう、気づきの日でもありました。

なお、当日は消防庁災害時支援ボランティアの方が2名、お手伝いに入ってくださいました。

講師の皆さんありがとうございました。

(防災推進委員 大嶋 文子)

夜間防災訓練

災害はいつ起こるかわからない。

首都直下地震が30年以内に、マグニチュード7級の地震が70%の確率で起こるとされる。地震が冬の夕方に起きた場合、死者は最悪2万3000人、焼失する建物は約41万棟に達するとされる。

四つ葉学校防災協議会では、2月14日（火）17:30頃、震度6強の地震発生との想定で夜間の避難所開設訓練を実施。自身、家族の安否を確認し集合場所へ。単独では行動しない、最低でも3名そろってから行動の原則の下、10名以上そろったので行動開始。

避難所となる体育館開錠、外回り（窓ガラス等の落下物、ヒビ割れ）、体育館内（ライフライン）の安全確認に各2~3名、備蓄倉庫からの資機材の準備（発電機、照明器具、受付用品）に3名、各リーダーへチェックリストを渡し開設準備。

外回り安全確認の報告、館内電気使用出来ないとの報告を受け、発電機を始動させ館内の照明確保、避難者受入れ準備完了（館内の区分け、受付、名簿作成準備等はしなかった）、避難者の受入れ。

照明スタンドの使用方法を復習し、最後に調布消防署つつじヶ丘出張所長小川様、市防災課の講評を受け終了。

夜間寒い中訓練参加ありがとうございました。

(四つ葉学校防災協議会 会長 笠木 勝司)



防犯関係のお知らせ

励ましを有難う

去る1月17日、防犯パトロールに市総合防災安全課から3名の参加を得て、その時の印象を以下の通り寄稿して頂きました。

『 若葉学校地区協議会 様

先日は、若葉学校地区協議会の防犯パトロールに参加させていただきました。ありがとうございます。

若葉小学校地区協議会のパトロールは、小学生だけでなくすれ違う方々へのあいさつ等の声掛けを行っていらっしゃるため、犯罪者やこれから犯罪を実行しようとする者が嫌がる地域となっており、地域防犯力の高さを強く感じました。

地域における防犯力の向上は、皆様方のようなパトロール活動による「地域の眼」が一番の防犯対策であり、「見せる防犯」という観点で地域の防犯力の向上に繋がっていくと思っております。

自助、共助、公助は防犯にも共通です。自らが気をつけ、地域で見守り、行政が支援するこのきずなが最大の防犯対策となります。その中心となる地域のつながりは大変重要です。自由な時間を活用したボランティア活動とはいえ、ご苦勞は大変なものと考えておりますが、継続は力なりという地域の防犯の要として末永く活動が続くことを期待しています。』

(防犯推進委員長 山田 十三男)



主幹 三ツ木吉和 様



係長 大林弘幸 様



主任 野澤禎史 様

防災関係のお知らせ

防災推進委員会の仕事2016

防災推進委員会は災害を防ぐ、そして被災しても最小限の被害を抑えることを目的に活動し、今年度は以下の3つの柱の下、それぞれ次のような結果を得た。

(1) 9月11日防災座談会

東部公民館との共催として実施した。第1部として①市総合防災安全課「大地震に備える」②消防署「大地震の火災対策」③警察「大地震時の留守宅の防犯対策」の基調講演のあと、第2部として四つに分かれた参加自治会での現状討論をし、それぞれ発表し課題の共有化を図った。

(2) 10月30日総合防災訓練

若葉小にて実施した。地区協役員、神高・四中生で約100名、一般住民参加者250名が参加し①安否確認②避難所生活③救命技術習得の3点に焦点を合わせ実施した。

(3) 2月4日普通救命講習

若葉小にて実施した。AEDの取り扱いと人工呼吸法等を習得し、三年間有効の、救命技能認定証を取得した。今年、例年より多い22名が参加した。



(防災推進委員長 川寄 健次)